

新たな動労千葉組織破壊攻撃を 団結の力で打ち破れ



敵の攻撃許さぬ階級的警戒心と1300の戦術的団結で勝利しよう、挨拶に互つ闘争

日刊 動労千葉

83.6.22

No. 1371

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二七二〇七

五八三年度組織部長会議ひらかる

動労千葉は六月十八日十時より、動力車会館において一九八三年度組織部長会議を開催し、三里塚・国鉄をめぐる情勢と当面する取り組みについて意志統一をはかり、全力で取り組んでいくことを確認しました。とりまく情勢は次の通りです。

本格化した三里塚二期着工攻撃

三里塚・国鉄をめぐる特徴的な情勢は、三里塚十八年の闘いの歴史の中で、政府・空港公団の本格的な二期着工攻撃は全面的な対決の段階へと突入し、八三年着工へむけた攻撃を開始してきています。その攻撃の第一は、ジェット燃料パイプライン八月八日、本格供用開始をもって現在の貨車輸送の四倍という、年間八〇〇万キロリットルを送油し、二期完成後の一日八〇〇便体制を築こうとするもので、パイプライン供用開始をもって一気に二期着工のムードをつくりだそうとしています。

第二は、成田青年会議所による「二期推進三万人」署名運動の強行と二期推進のための世論操作です。

第三に、政府・空港公団は、「一坪再共有化」なる土地切り売り運動に転向した脱落派による反動的な分裂につけこんで、反対同盟と三里塚闘争の解体攻撃、他方では成田用水の強行と「今秋にも換地や調査」によって脱落派と条件派をとりこもうとする動きをみせています。

第四に、国家権力による三里塚破壊の攻撃の激化であり、五月六日三井警察庁長官の全国警備部長会議での「三里塚反対同盟は分裂している。今こそ解体のチャンス」なる発言に見られるように、弾圧を指示していることです。

第五に、空港公団新総裁・秋富は、就任早々、「話し合い攻撃」を本格的に進める意志表示をしました。

第六に、動労「本部」革マルによる政府・空港公団と軌を一にした敵対・破壊策動です。

このように三里塚をめぐる情勢は、8・8パイプライン供用開始を頂点とした二期着工の本格的な攻撃の中で、革マルと脱落派を粉碎し、労農連帯のより一層の強化を基礎に三里塚陣形を拡大していくことが求められています。

8・8パイプライン供用開始と連動した動労千葉破壊攻撃を団結の強化で打ち破ろう！

六月十日住友電工会長亀井を委員長とする国鉄再建監視委員会が発足しました。今後は国鉄「再建」のための「行革大綱」と「緊急措置10項目」の強行を軸にした、合理化・国鉄労働運動破壊攻撃の激化は必至であるといえます。こうした中で新規採用の三年連続のストップと59・2ダイ「改」II貨物合理化に加え、動乗勤制度改革を合わせて強行せんとしています。この攻撃は国鉄労働運動の最強部隊である乗務員の労働条件を抜本的に改編し、「私鉄並み」以上の労働条件を強要するものであり、35体制の繰り上げと20万人台体制へむけた布石であります。こうした情勢を反映して動労千葉組織破壊攻撃も激化してきています。

その第一は、8・8ジェット燃料パイプラインの供用開始を契機に、権力・当局・動労「本部」革マル一体となった「6・12デッチ上げ告訴事件」での片岡一博津田沼支部長（当時）、吉岡一津田沼支部書記長、篠塚康則君の三君に対する全く不当な5・20「有罪」判決と処分攻撃の策動です。第二は、六月三日付をもって反動太田職員局長の直系といわれる人物を新たに千葉局総務部長に就任させた人事異動であります。さらに六月十四日には自民党の交通部長・三塚博の千葉局「視察」です。

第三に、五月二十日、千葉局は緊急現場長会議を開催し、①ワッペン・ステッカー ②脱帽運転 ③服装 ④背面カーテンの取り扱いについて個人記録簿を作成し、現認し、厳正に指導し、指導に従わない者は三項八号の適用と「処分せよ」と指示しています。六月九日には「職場規律の厳正に欠く」との理由で停職一名、減給一名、戒告二名の処分を通告してきました。こうした当局の一連の攻撃の激化は、新たな動労千葉破壊攻撃と受けとめ、一人一人が敵の攻撃を許さない階級的警戒心をもって組織の団結をより一層強固に打ち固め、前進していこうではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

参院選に
勝利しよう！

投票日
6月26日

千葉選挙区(旧地方区)は
比例代表区(旧全區)は

いとうさき八重子
日本社会党

投票用紙
白色の